

## 高橋 克英の誕生から人生概要

### 誕生、小中学校

私は、第2次世界大戦開戦2年前の昭和14年6月生れで、山間豪雪地の女谷の綾子舞の里、小自作農家の5人兄弟の長男、戦後の物資不足の貧しい時代、敗戦の翌春4月鶴川小学校に入学し、最初は教科書も無く多くの仲間と楽しく学校生活を送り、段々と教科書やノートなども充実し、音楽のオルガンも入りました。当時は学校給食も無く、2年生後半頃から週2-3回弁当持参するように成りました。晴れた日の休憩時間には、玄関先に整備された「静雅園」に友達数人と入り、楽しく遊んでいました。

小学時代は、今のように制服やランドセルも無く自由で、2年生後半頃の終業時の写真を見て下さい。

4年生から夏休み後頃から、学校周辺の水田の周りの農道や畦を通り、稲穂が実り始める頃より、害虫の「イナゴ」が大発生したので、晴れた朝登校後全員で「イナゴ」を、各自手拭で作った袋に、一杯取り、茹でて用務員さんが干して、売却し学校図書購入に当てていました。また、後学年の夏休みの宿題で野草の「アカソ」取り、乾燥させて一蔓ずつ提出していました。このように山の子として元気健康に、育ちました。

### 父の急死、高校入学

父は、大戦で「ノモンハン事件」に陸軍軍曹として参戦させられ、後遺症もありましたが、夏期は、自作農として働き、冬期は豪雪地のため、浜松市へ酒造出稼ぎ10年目の昭和30年1月急性腸捻転症を発病し、入院治療の甲斐も無く発病10日で、薬医効果無く37歳の若さで急死してしまいました。私は、4月高校進学の前で準備していましたが、自家農業の働き手の不足、修学資金不足に悩みましたが、止を得ず、近くの農業高校の定時制に進学し、夏期は週3日、冬期4日登校し勉学に励むことに決定して貰い、4年間頑張りました。何とか、修学資金を節約し、春耕期や、田植え期、秋収穫の稲刈り期などの農繁期には、授業を欠席しながら、何とかやりくりし、2年生から、先生の温かいご指導により、日本育英会の奨学資金、月額授業料相当額の千円を卒業までの3年間お借りし、修学し貧しい中でしたが、東京農大通信課程を戦後の食糧増産時代だったため、農業技師を目指して、勉学に努力し、卒業1か月前同級生数名と県が実施する資格試験を受験し、お陰様で、私のみが合格しました。

掲載しましたこの論文は、技師資格試験を受検した前に、自分の稲の収穫前の出来状況を良く見て記録提出致し、良かったと思いました。この懸賞募集「収量を正しくつかむには」に入選が決まり、雑誌掲載と賞金5千円を戴きました。

黒姫村農業共済組合技師として、昭和35年4月採用されてから5年6か月勤務しました。

## 高橋 克英の職歴概要

市内女谷（綾子舞の里）出身、柏農卒。卒業前県の実施した農業技師の資格試験に合格し、当時の黒姫村農業協同組合技師として6年勤めていたが、黒姫村役場から招聘され、当時水田の区画整理がされて居なかったため、国県からの高額補助金を受け土地改良事業実施のため農業構造改善事業の採択を受けるための計画策定事務に尽力し一次、二次事業が、採択され水田約百町歩の区画整理事業が採択され新たに土地改良区を設立して事業を推進し、この事業に関連して山林を桑園造成と5名以上で養蚕組合を設立して、この事業により農家収入増を図り事業推進に努力した。

柏崎市合併の為、村道工事に伴う買収したが、所有権移転登記等や農地の交換分合登記の未処理を解消するため登記事務に尽力し市村合併となった。（昭和43年11月1日）

柏崎市では、公営住宅の管理、鶉川、野田診療所受付、会計事務、税務課諸税や交付税歳入担当、財政管理課契約係長で建設工事の入札、契約、検査立会など5年間担当し、博物館、野球場スタンド、市道2-3号線鉄道上を通る跨線橋の建設など多くを担当した。

土木課補佐では、市道、小河川、公園管理、冬季の市道除雪、県営鶉川治水ダムの対策室が設置され、宅地住宅の用地交渉を県の担当者と努力、難航しましたが、早朝、夜間と尽力し、比較的早期に調印式を開催した。宅地と住宅がダム用地に9戸あり、このダムの地権者は230名で、水没面積は、約43万平方メートルで、特に柏崎駅周辺を洪水から守る重要なダム建設である。完成工費、工期は、445億円、2025年度に完成共用予定である。

その後初代維持管理課長に昇任、課長2年目の平成5年10月末から11月に、アメリカ、カナダへの11日間の海外への行政視察研修への旅で、更に外国の都市整備状況等研修させて頂きました。

収税課長3年目の平成9年1月6日市職員勤続30年職員表彰され、受彰者21名を代表して謝辞を述べる。

この年4月、部長待遇の民生部参事保険年金課長に昇任。3年間勤め、介護保険法が制定され、市の条例、保険料、介護施設の指定等を行い市の制度に携わり35年勤務し、2000年3月末定年退職。

翌日から北日本エンジニアリング（株）社長から招聘採用され、70歳誕生月末

日迄、業務管理の総務部長（人事採用、営業）、顧問として、社業進展の為、努力。入社時、社員百名程が退職時130名程となり、社業進展があり、70歳の誕生日月末日で退職した。

退職後は、郷土史に興味を持ち、研究会に入会し、長岡市や新潟市の古書市へ行き、白川藩、桑名藩、高田藩、柏崎健などの古文書、木札、印などを購入研究した。機関誌の原稿を書き投稿し機関誌に掲載された。また県越佐文人研究会に入会し、3回投稿し機関誌に掲載されました。

平成4年11月開通建立した国道353号線小岩トンネル開通記念碑の小公園が、草刈しないため、平成24年5月から市に報告し、年3回草刈、木の枝剪定を3年間実施したが、草刈り機が破損したため中止し、以後市の担当が実施している。又黒姫村時代、久米須山開田約9町歩の須田村長揮毫開田記念碑の周辺の草刈や、上輪の萩原井泉水の句碑周辺の草刈ボランティアを実施した。

平成23年3月から、市主催のボランティアガイドの研修を受講し、街なかガイド、昭和天皇散歩道、鶴川神社ガイド、椎谷陣屋、観音堂等のボランティアガイド、鶴川綾子舞街道ガイド等を希望により実施した。

2018年は戊辰（明治）150年の記念で、私も今年は傘寿祝の同級会の幹事長をさせて戴き盛大に開催し楽しい2日間でした。

これらを記念して、私の自宅に保存されていた古文書数点と私が収集した桑名藩、高田藩、越後府、柏崎県などの古文書、木札、印等合わせて60点を市立図書館、椎谷藩海岸絵図、折居村文子舞幕末江戸公演古文書を博物館へそれぞれ4月から5月にかけて寄贈した。

又展示と解説会が開催され私が説明や解説をおこないました。これらにより、7月27日に柏崎市長から感謝状を戴きました。

この事について、地元新聞社からご理解を戴き詳細について報道戴きました。関係されました皆様大変有難うございました。

平成31年4月30日（平成最後日記）